



ノビシエートの事務所を訪ねて、  
カンパを届けた時のクリストファー  
ーとスタッフのチャリスさん 中  
央 ロウウ 千子さん



2019年1月25日発行

NPO法人ビラオンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL & FAX:045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

http://hands-mindanao.a.la9.jp/

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラオンの医療と自立を支える会

## 初等教育普及と人材育成 — 新春雑感 —

### クリストファーとボニファシオ

「ご無沙汰しています。今サウジアラビアで会計士をしています。苦労もしましたが今となればよい思い出です」

新春メール第1便は、5年前の会報75号に、大学院進学を目指していると紹介のクリストファーからでした。会計士国家試験に一度で合格し、地元の会社に就職後も、週末には寮を訪ねて、後輩の勉強をみてくれていましたから、海外就労のうわさを聞いた時は大変残念に思いました。

今回のメールには、サランガニ湾をバックの写真も添付されていました。正月休みで帰省中のようにです。

限られたカレッジ支援会員が支える奨学生の数は、毎年10名前後です。その特典を受けた学生には、できれば自分の村で、貧困や環境などの課題に取り組んでほしい、少なくともミンダナオに留まってほしいと願い、そう伝えてきましたが、最終的に海外就労を選択するケースも少なくありません。

その中で、村に残り、ここ数年は私たちの事業の現場指導者としても頑張ってくれているのがボニファシオです。

6月には緑の募金交付金によるボルールの事業が終わり、今は新規事業地クロッドで苗木の手入れ指導をしています。このボニファシオからは、年頭の挨拶に続き、「ボルールにはまだ貧しい住民が多い。モデル農場で森林農業技術を伝えたい。次年度でもできれば種子代だけでも支援いただけないか」というメールが届きました。

希少なカレッジ奨学金支援の主旨からすれば、ボニファシオの方を高く評価したいところですが、一方で、会計士の職を得て身内を助け、いざという時のために、少しずつ貯金もしているというクリストファーは、古川副代表の前号本欄「先輩の成功が後輩の勉学への意欲を刺激する」良い事例です。ほどなく、またクリストファーからメールが届きました。「サウジに戻る前にノビシエート寮を訪ね、事務所のチャリスを通してカンパさせてもらった」とありました。後輩思いは5年前と変わらないようです。

### 始まりは小学5、6年生支援から

私たちが教育支援を始めたのは、1996年11月です。「せっかく学校を作っても、特に女子は4年を終えると親の決めた結婚のため中退してしまう。5、6年生への奨学金支給で、初等教育だけは終了させたい」というCMB (CMIPの前身)に協力することにしました。医療支援の会として発足して4か月目のことでした。

下の写真は、この教育支援の初期に、CMBから贈呈され、以降事務所の壁に掲げていたものです。竹製の額縁は壊れましたが、山々を描いた厚紙に貼られた子どもたちの写真は鮮明で、左欄で紹介のボニファシオの他、村の公立校で教えているメリアン、エドウィン、ジミーやその先輩で教師国家試験合格第1号のドリもいます。

人材育成に至る教育支援の原点に戻る1枚です。



### 若い世代に引き継ぐために

#### 一現地で「子どもたちの学びたい」に触れる機会を

当団体としての歴史は、上記のように22年ほどですが、2002年と2013年に、ビラオンと同じミンダナオ島先住民族であるマノボやチボリの教育支援をしていた団体 FOT 及び JOFPA の活動を引き継いだ関係で、現会員の中には、支援歴35年を超える方もいます。

様々なきっかけで始めた支援の長期継続、そのエネルギー源は、現地訪問、毎年の里子現況報告など、直接、間接の「顔の見える支援」にあるかもしれません。

SNS他を通じて、世界の多様なニーズに触れている若い世代の皆さんに、ミンダナオにも関心を持っていただくには、現地で子どもたちの「学びたい」に触れていただくことかと思えます。今年こそ戒厳令解除、治安回復、そして、スタディーツアー実現を願っています。(山崎)